ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学保健医療学部看護学科
名前 武田かおり
作成日　2023 年 3 月 22 日

【責任】

保健医療学部看護学科に所属し、専門教育科目である成人看護学を担当している。成人看護学は人間の成人期（20～65 歳）を対象とする看護の領域である。担当する科目は、成人看護学領域の中でも慢性疾患をもつ人々を対象としている。主たる教育活動は成人看護関連科目（成人看護学援助技術論演習Ⅱなど）と、生活に関する科目、卒業研究関連、その他に委員会活動などとして高大連携と、学科内実習関連を担当している。

【理念】

少子高齢多死社会における医療は、技術の進歩や医療提供する場の多様化など、大きな変化の中にある。国民は、絶対的な安心と安全を含めた、より良い質の医療や看護を求めている。高度化および複雑化している医療を受ける患者の多くは複数の疾患を有しているため、その看護も多様化し、看護師にはさまざまな知識を統合する能力が求められる。さらに、チーム医療における多職種間協働（薬剤師・理学療法士・栄養士など）では、看護師としての専門的知識の提供のほかに連携を図る調整役としての役割が加わる。

少子化により学生数が減少するなか、基本的な生活能力の低下や常識の未習得といった指摘をふまえると看護基礎教育における看護学生の資質確保は大きな課題である。したがって、看護学として知識や技術の修得、主体的な学習のみならず、看護師が社会に求められる倫理的な態度を含めた、アイデンティティの形成にも基礎教育が関わる必要があると考えている。私の理念として、「学生が看護に興味を持つこと」「主体的に学び続ける必要性を理解すること」「自分の考えを持ち、状況判断できる」教育を進めていく。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために看護学科では、学生に対して「考える力」と「判断する力」から「深化させる力」を学んでいくことを学びのプロセスとしている。

「看護に興味を持つ」

・予習（＝反転授業）により、授業の目的や手技目的や意義を意識づけ、授業に参加することで体験による印象付けを高める
・学生個々人へのフィードバック（評価）をし、各自の課題を明確にする。課題軽減や克服するように働きかけ、学生に成功体験をつくる
・知識を活用する方法の説明を意味づけとともに行い、医療における必要な場や効果的な活用について説明あるいは体験させる
・実際に働くかっこいい看護師の姿を見て学んでもらうため、臨地実習の際に看護師の実務に同行（シャドウイングなど）して体験するあるいは教授する状況を計画する

「主体的に学び続ける資質を身に付ける」

・技術の演習等を繰り返し行うことで身に付ける場を設定する。体得した技術を実際の患者に対して実践し、応用や工夫の必要性を知るようにする
・グループワークなどで自分自身の知識・技術・思考などを客観的に見つめ、思考を深めるよう促す「看護において自分の考えをもち、状況を判断できる」
・学生個々人へのフィードバック（評価）をし、新たな方法や計画を立案させることを繰り返し、修正と評価による適正化を体験させる
・知識を活用する方法を説明することで意味づけとともに活用場面をおさえる
・自身の考えを述べる、他者の意見を聞く、自身の考えを振り返ることで、思考を深める
・グループワークなどで自身の考えを述べ、他者の意見を聞き、自身の考える視座を広げる

【評価・成果】
・成人看護学に関する学生による授業アンケートでは、「意欲的に授業に取り組む」「興味や問題意識を持つことができた」「指導やフィードバックが十分に行われていた」などの評価（そう思う・非常にそう思う）がすべて 90％を超えていた
・授業後に毎回実施しているアンケート（独自）では、学生は新たな気づきや学びを記述したり、授業の進行やスライドに関する意見を述べたりする。学生の興味や学びが向上するため、良い方法は継続し、改善すべき点は学生が理解しやすいものに変更した。

【目標】
・長期目標）評価 半期終了後；学生が主体的に興味関心をもって学べるような授業を行う。
・短期目標）評価 毎授業後；担当する授業において参観する教員がいる場合は、授業後にフィードバックを受け、客観的な意見や評価を受ける
・短期目標）評価 毎授業後；授業ごとに学生からアンケートによるフィードバックを受ける。